特集1

意外と知られていない

小名浜港が　果たす役割

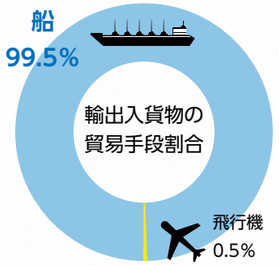
貿易の玄関口として地域や暮らしを支えている小名浜港の　知られざる機能や役割、そしてこれからの挑戦を紹介します

ONAHAMA International Trade Port

日本は、世界有数の貿易大国であり、私たちの暮らしに必要なエネルギー、資源、食料の多くを輸入に頼っています。

こうした貿易量の99％（重量ベース）は、海上輸送によって運ばれており、港湾は、貿易の中心的な役割を担っています。

POINT 1　日本の貿易の中心は「港湾」



小名浜港の歴史

小名浜港の歴史は古く、江戸時代に幕府上納米の積出港として港湾の基礎が築かれ、明治時代以降は常磐炭鉱から産出される石炭の積出港として栄えました。

昭和31年の関税法による開港指定を受けて以来、国際貿易港として多くの歴史を刻み、本市発展の原動力として、地域経済を支えるとともに、わが国の発展の一翼を担ってきました。

POINT 2　東日本地域のエネルギー供給拠点

福島県の沿岸部には多くの火力発電所が立地しており、東北地方や首都圏への電力供給を担っています。小名浜港は、これらの火力発電所が使用する石炭の供給拠点港として活躍しています。

小名浜港で取り扱われる貨物のうち、石炭は、全体の約6割を占めており、平成23年に東日本で唯一「国際バルク戦略港湾（石炭）※」に選定されたほか、平成25年には、全国初となる「特定貨物輸入拠点港湾」に指定されました。

これを受け、小名浜マリンブリッジの先にある東港地区（人工島）において、国内最大級となる大水深耐震強化岸壁を備えた「小名浜港国際バルクターミナル」が昨年6月に全面供用開始となりました。これにより石炭を輸送する船の中で最も大きい船型の入港が可能となり、大型船を活用して、石炭の安定的かつ効率的な調達を実現させ、産業競争力の強化に貢献しています。

さらに、市内にある国内最大級の木質バイオマス発電所への燃料供給をはじめ、県内に建設される大型風力発電所への部材供給など、再生可能エネルギーの推進においても重要な役割を担っています。

小名浜港を通じて燃料を輸送している火力発電所およびバイオマス発電所などにおける発電能力を合わせると約130万世帯分に相当する電力となります（一世帯当たり30A・100Vとして換算）。

このように、小名浜港は、東日本地域におけるエネルギー供給を支える物流拠点として、多様な産業・雇用効果を発揮させながら地域経済を下支えしています。

国際バルク戦略港湾とは

わが国の産業や暮らしに欠かせない物資である石炭、鉄鉱石、穀物（通称：バルク貨物）の安価かつ安定的な輸送を実現するため、国土交通省が国内有数の国際物流拠点となる港湾を選定。

POINT 3　小名浜港のこれから…カーボンニュートラルポート

2050年、脱炭素社会の実現に向け、小名浜港の新たな挑戦が始まっています。

水素や燃料アンモニア等の次世代エネルギーの輸入や貯蔵、利活用などを図るとともに、脱炭素化に配慮した港のさらなる高度化を通じて温室効果ガスの排出抑制に寄与する「カーボンニュートラルポート」の実現を目指し、現在、福島県が「小名浜港港湾脱炭素化推進計画」の策定を進めています。

また、物流や観光ネットワークの強化を図るため、小名浜港から常磐自動車道にアクセスできる「小名浜道路」の整備も進められています。泉町を起点とし、山田町に至る全長8．3㎞の無料で通行できる自動車専用道路です。現在は全区間での工事に着手しており、2020年代初頭の完成を目指しています。

日本港湾協会定時総会が開催されました

日本港湾協会とは
1922年に設立され、全国の港湾関係者や自治体、企業、学識経験者などで構成。主に、港湾に関する調査研究などを目的とし、地域振興や経済基盤の強化を目指して活動。

日本港湾協会の第96回定時総会が5月24日、本市で開催されました。

定時総会は、県内では初、東北地方では震災後初の開催。全国から港湾関連自治体の首長や港湾関係者、事業者等約千人が出席し、港湾の整備促進や振興、政策研究などの活動について協議がなされました。

また、港湾功労者に対する表彰も行われ、小名浜港整備促進期成同盟会の正木好男参与が全国の受賞者172名を代表して、表彰状などを受け取るとともに、謝辞を述べました。

表彰状を受け取る正木参与（左）

25日には「東日本大震災からの復興」と題して、アクアマリンふくしまの安部義孝名誉館長、常磐興産株式会社の西澤順一代表取締役社長による講演が開催されたほか、小名浜港などの視察会が行われました。

本総会が本市で開催されたことで、小名浜港が東日本大震災から力強く復興した姿をはじめ、観光・文化など多くの魅力を全国の港湾関係者に広く知ってもらう機会となりました。

⚓ 本市関係の港湾功労者 ⚓

正木　好男（小名浜港整備促進期成同盟会　参与）
興津　照昭（磐城通運株式会社　代表取締役会長）
小名浜まちづくり市民会議
小名浜清港会
國谷　潤（国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所）

小名浜港が動く！～新たな産業・若者雇用へ～

いわき市長　内田　広之

小名浜港は、エネルギーの歴史とともに発展してきました。昨年は、国際バルクターミナルの本格供用も開始。市内ではその石炭を用い、世界最先端の石炭ガス化複合発電（IGCC）もなされ、二酸化炭素排出量の抑制も進んでいます。同時に、国のカーボンニュートラルポートを検討する港にも選ばれ、物流や荷役の脱炭素化に向けた取り組みも加速しています。

そんな中、本年４月に、福島国際研究教育機構（エフレイ）が創設されました。今後、同機構の国内外の研究者と地元港湾事業者との連携で、新エネルギーへの挑戦も期待できます。これにより若者の首都圏などへの流出を止め、市内へ留める新たな産業と雇用創出も期待できます。

こうした最先端の小名浜港を舞台に、去る５月２４日に日本最大級の港湾大会・日本港湾協会定時総会が開催され、全国から約千人が本市を訪れました。新たなビジネスチャンスが生まれるなど、小名浜港が大きく動き始めています！